

●多様な国家像が林立する現代世界にあって、「歴史浅く、小さな「人造・移民」国として異彩を放つシンガポール。その「秩序ある成長」を国家機能の側面から徹底分析。

シンガポール国家の研究

「秩序と成長」の制度化・機能・アクター

拓殖大学 岩崎育夫 著

本書の目的は、「制度化と機能」と「アクター国家」の二つの視点を使い、シンガポール国家が自己設定した「秩序と成長」のために、どのような制度化を行い、どう機能（ワーク）させたのか、その実体を解明することにある。すなわち本書は、既存の国家類型を援用しながら、この二つの分析視点を機軸に据えてシンガポール国家の全体像を明らかにすることを試みるものである。なぜこのような国家研究が必要であり、意味を持つのだろうか。

第一は、シンガポール国家の事例解剖を通じて、現代国家の本質の一端に迫れると考えるからである。ある社会が国家（ある政治体制）を創るには、成員の強固な意思と膨大なエネルギーを必要とするが、ひとたび創られた国家（政治体制）の維持には、それとは別の、あるいは、それ以上のエネルギーや特殊能力が必要とされる。シンガポールは一九六五年に誕生した若い国家だが、独立後に人民行動党の厳格な一党支配体制が築かれ、「シンガポール国家」と「人民行動党」が同義語となった体制の下で「秩序と成長」の「制度化と機能」が極限にまで追及されてきた。それゆえ、シンガポールを事例に、現代国家は任務遂行のために、どのような制度化と機能を行い、国民を統治・管理しているのか解明したならば、現代国家の本質（トータルな実体像と存在理由）の一端に迫ることができるとし、その意義（あるいは無意義）も明らかにすると考える。

第二に、シンガポール国家がそれを実行する過程で生じた問題を抉り出すことで、現代国家の限界や課題が明らかになることである。シンガポールの事例分析から得られる仮説は三点ある。第一が、国家の任務が何であれ、まさにそれを果たす過程で国家と国民関係の逆転現象が起こることである。すなわち、近代国家は国民が主人であることを原理にしたものだが（国民国家）、シンガポールでは国家が主人となる逆転現象が……（序章より）

●目次

序章	シンガポール国家の分析視点
第1章	シンガポール政治経済史の概略
第2章	秩序の制度化と機能 ——政治統治と管理システム
第3章	成長の制度化と機能 ——経済成長の仕組みと運営
第4章	国家と国民——社会工学と国民の意識
第5章	国際関係の基本構造と実態
第6章	二一世紀のシンガポール
終章	人民行動党国家の透視図
あとがき	
文献リスト	
索引	

体裁
・A5判・上製カバー
・三六〇頁

税込み定価
・五二五〇円
(本体五〇〇〇円)

発行所 風響社

114-0014 東京都北区田端四一-14-9
電話〇三(三)八二八 九二四九
http://www.fukyo.co.jp

注文書	
流通センター取扱品	
発売	風響社 TEL: 03-3828-9249
税込み	五二五〇円
部	

地方出版

岩崎育夫 著

シンガポール国家の研究

「秩序と成長」の制度化・機能・アクター

ISBN4-89489-020-8 C3036 ¥5000E

〔お客様控え〕

ご氏名
ご住所

お電話

月 日